

# 最優秀賞

神奈川県教育長賞

## 相手を思う気持ち

秦野市立西中学校

一年 飯塚 恵 奈

私の三つ上の兄は自閉症です。自閉症とは発達障害の一つで、コミュニケーションが上手に取れず、相手の気持ちや状況を読み取ることが苦手です。そのため、私もたまにイライラしてしまいます。

私が小学生の頃までは、兄に話しかけても兄に興味のないことは、全く反応してくれず無視されてばかりでした。私は、その態度に腹が立ち怒ってしまったことがあります。すると兄は、とたんに大きな声を上げ「ドンドン」と机を強く叩いていました。私はとてもびっくりしました。このように、自分の思っていることを言葉でうまく言い表せなかったり感情をコントロールすることができません。自閉症の兄にとって、いつも通りに話しているつもりでも、相手を不快にさせてしまったり、怒らせてしまうことがあります。すぐに怒ったりパニックになってしまう原因は私にもあると感じました。私は兄の態度に対して、怒りのあまりに感情的になり、かなりきつい言い方になっていました。私は、怒るのではなく注意してお願ひした方が良いということに、気が付きました。そうすれば、兄も納得して怒らないだろうと思つたからです。

兄は、何かをする時の方法や手順、物の並べ方などにも自分のこだわりがあり、いつも同じ様でないと気が済みません。また、その場に合わせて臨機応変に対応することが苦手です。いきなり「これやって」と言つても引き受けてもらえないことが多いので、兄に頼み事をする時は、早めに声をかけ、知らせておくことを心がけています。そうすれば、兄も心の準備ができるのでスムーズに動くことができます。

私が小学三年生の頃、兄は六年生でした。ある日、友達から「恵奈のお兄ちゃん、うるさすぎる。変人みたい。」と言われました。私は「あはは。」と苦笑いすることしかできませんでした。友達に笑われるのが怖かったのと兄が自閉症だということを知られるのが恥ずかしいと思つたからです。また「兄のことをみんなどう思っているのだろう」とずっと気になつていたので、兄に障害があることを友達に言えませんでした。友達との何気ない会話でしたが、笑いながらも本当は嫌な気持ちでいっぱいでした。私はその時、友達に兄が自閉症であることを伝えていれば、少し気持ちを分かってくれたのではないかと今では思っています。

自閉症の兄といつて困つたことや大変だと思ふことが今までたくさんありましたが、兄は集中力や記憶力が良く、暗記が得意など素晴らしい所もたくさんあります。兄と一緒にいると、とても元気をもらえます。辛くて泣きそうな時も、兄なりの言葉で励ましてくれます。その言葉は少しきこちないですが、とてもうれしいです。

今、私が中学生となり兄とはたくさん話しができるようになりました。なぜなら兄の特性が分かるようになり、頼み事をする時は早めに伝えておいたり、怒るのではなく、注意してお願ひするように心がけているからです。

私は、友達に対しても何かを言う前に頭の中で、本当に言つて良いことなのか悪いことなのかを判断するように気を付けています。なぜなら、友達と話す時には楽しくて気持ちが楽になり、思つたことをついそのまま口に出してしまい、相手に嫌な思いをさせてしまうのではないかと思うからです。一度口に出した言葉は取り消すことができないので、相手の気持ちを考へて行動することが大切ではないかと思ひます。また「自分が言われて嫌なことを言わない」という当たり前のことを一人一人が心がければ、自閉症であるなしに関係なく、みんなが気持ちよく過ごせるのではないかと思ひます。